

栄光の萩原朔太郎賞 小池昌代さんの『コルカタ』に



「第18回萩原朔太郎賞」は、小池昌代さんの『コルカタ』に決定。ここでは小池さんのプロフィールや受賞コメントなどを紹介します。賞の贈呈式と記念講演などは、10月30日(土)に前橋文学館で行います。

問い合わせは 文化国際課 ☎898-6522

雨と木の葉

じよるぼれ ばたのれ joi pore, pata nore
 じよるぼれ ばたのれ joi pore, pata nore
 幼いたゴールの魂を奪ったという
 ベンガル語の詩の一節
 雨 ばらら 木の葉 さわわ
 むらさめの
 つゆもまだひぬ まきのはに
 きりたちのぼる
 あきのゆふぐれ
 山際、ふるえ 波、わななき
 夕ぐれの河に 陽が濡れる
 雲が 砂が ああ、うごく うごく
 ごく、えもう、もう
 ああ、おいえ、もう
 音と音
 重なって 波紋をつくり 幾重にも 遠くまで
 運ばれていく ハコバレテイク
 届くように トドキマスヨウニ
 あのひとつに わたしでないひとつに
 この世の時を超越して
 じよるぼれ ばたのれ
 ぼた、のるる、うう
 雨と木の葉
 広がっていく
 印度・コルカタの
 無名の大地
 たたく雨音

最終候補作品 6点から選出

9月3日、選考委員5人が本市に集まり受賞作品を選出。最終候補作品6点の中から、小池昌代さんの詩集『コルカタ』が栄えある朔太郎賞に決まりました。

最終選考に残った候補者・作品名・出版社は次のとおりです。

— 敬称略(50音順) —
 有働薫『幻影の足』(思潮社)、金時鐘『失くした季節』(藤原書店)、小池昌代『コルカタ』(思潮社)、貞久秀紀『明示と暗示』(思潮社)、高貝弘也『露光』(書肆山田)、辺見庸『生首』(毎日新聞社)

選考委員の選評

『コルカタ』は、インド・コルカタへの旅の後、毎日1編ずつ詩を書き発表するという、特殊な状況下で作られた作品です。そのため、詩によって出来不出来はありますが、一生懸命に作られている印象を受けました。作者の冒険心が表れていて、評価できる作品です。

5人の選考委員

— 敬称略(50音順) —
 入沢康夫(詩人、評論家、仏文学者)、

文学館で 贈呈式や展覧会

岡井隆(歌人、医師)、白石かずこ(詩人、評論家、エッセイスト)、高橋源一郎(作家、評論家)、平田俊子(詩人、作家)。

賞の贈呈式と受賞者の記念講演などを行います。駐車券の配布はありません。

日時 10月30日(土)午後1時30分
 会場 前橋文学館
 対象 一般、先着80人
 申し込み 10月12日(火)から文化国際課 ☎898-6522へ

■萩原朔太郎受賞者展
 日時 10月31日(日)まで
 会場 前橋文学館
 問い合わせ 同館 ☎235-8011

受賞に 喜びのコメント

受賞の知らせを聞き、心が震えました。今後も詩のために果敢に働いていきたいと思えます。朔太郎は、ここ数年わたしの愛読書でした。読むだけでなく、曲を付けて歌ったりして、無謀なこともしましたが、今回、このような形で朔太郎との縁を作っていただいたこと、大きな喜びです。



小池昌代さん 撮影/瀬戸正人

小池昌代さんのプロフィール

昭和34年東京生まれ。詩人・小説家。主な詩集に、『ババ、バサラ、サラバ』(小野十三郎賞)、『もともと官能的な部屋』(高見順賞)、『永遠にこないバス』(現代詩花椿賞)、短編小説集に、『タタド』(表題作で川端康成文学賞)、『感光生活』、『ルーガ』。ことし6月には、萩原朔太郎を愛する中学生女子を中心に、詩と人間の生きる場所を模索した長編『わたしたちはまだ、その場所を知らない』を刊行。詩や小説のほか、エッセイや書評、絵本の翻訳、詩の選集の編さんなどにも取り組む。

前橋文学館 展示案内

■若い芽のポエム作品展

若い芽のポエム入賞作品を紹介します。
 日時 = 10月2日(土)~31日(日)、午前9時30分~午後5時
 会場 = 前橋文学館
 対象 = 一般

問い合わせは 同館 ☎235-8011